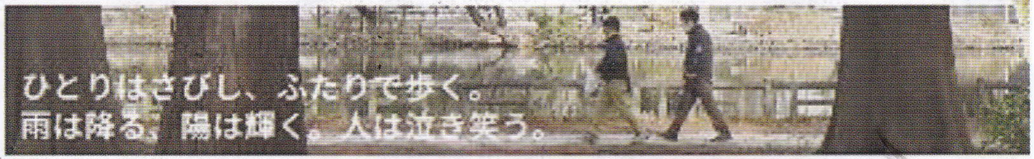
よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わらなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。



<知的障害者の暮らしとは？>

知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、親元で暮らしているのが実情です。

2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。

そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰もがともにあるために、新しい選択肢を見つめてみませんか？

2018年/95分/16:9/カラー/日本
監督・撮影・編集:宍戸大裕 / 音楽:末森樹　永原元 / 音響構成・整音:米山靖 / 宣伝デザイン:林よしえ / 宣伝イラスト:木下ようすけ / 題字:岡部亮佑
特別協力:全国自立生活センター協議会 / 助成:公益財団法人 キリン福祉財団 / 企画・製作:映画「道草」製作委員会
お問合せ:映画「道草」上映委員会　Tel:080-3457-8833　FAX:087-883-6570　info@michikusa-movie.com　http://michikusa-movie.com/

皆様へ♡
私たちNPO法人ママもっと笑っては、障がいがある子の母親たちが活動している小さな法人です。
子どもの障がいを知り、泣いてばかりいたあの頃、子ども達はきっと「**ママ、もっと笑って。**」と言っていたに違いない、これからの人生を子ども達といっぱい笑って生きていこう、そんな思いを込めて「NPO法人ママもっと笑って」と名前を付けました。
私たちの願い
「障がいがある人もない人も共に生きる地域へ」
それは、障がいがあることが地域で生きることへの障壁にならないこと。
生まれた地域で、育ち、学び、暮らし、働き、年老いていけること。
この歩みのために、私たちにできることを精一杯やっていきたいと思っています。
どうぞお誘いあわせおこしくださいませ。